

亜リン酸肥料によるバジルべと病被害軽減技術の開発

【背景・目的・成果】

県内のバジル栽培では、2015年に初めて、べと病により収穫量が激減する大きな被害が発生しました。べと病は肥効が切れてくると発病が助長されるため、各種肥料の追肥による被害軽減効果を検討したところ、亜リン酸肥料の効果が高いことが分かりました。効果の持続性から、株あたり4~8gを移植時とその後約1か月おきに施用することで40~50%程度、被害を軽減できました。

バジルべと病の被害と課題

感染すると葉の黄変が急速に拡大→大きな被害、途中で収穫断念することも



葉裏に孢子形成



バジルは葉が下垂し、逆凹状になるため、葉裏に葉液が届きにくく効果的に防除できない

亜リン酸肥料とは



吸収性のよいリン酸で根部生育、活着を向上させます。セルトレイ処理しやすく長期間肥効がある緩効性亜リン酸粒状肥料に注目！

成分 可溶性リン酸:7.0%
水溶性カリ:5.0%



亜リン酸肥料処理

無処理

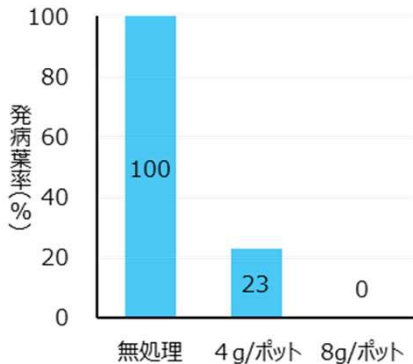
亜リン酸肥料処理によるバジル苗の根張り向上

【注意】当資材は肥料であり、農薬ではありません

亜リン酸肥料のバジルべと病被害軽減効果

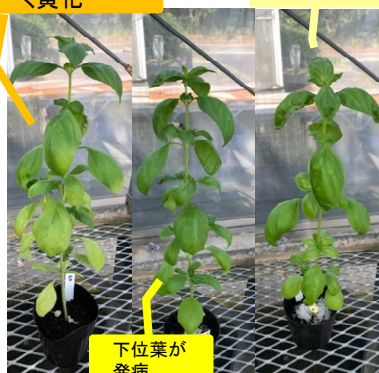
ポット試験

株元施用後に罹病株均一接種



全体が著しく黄化

発病なし

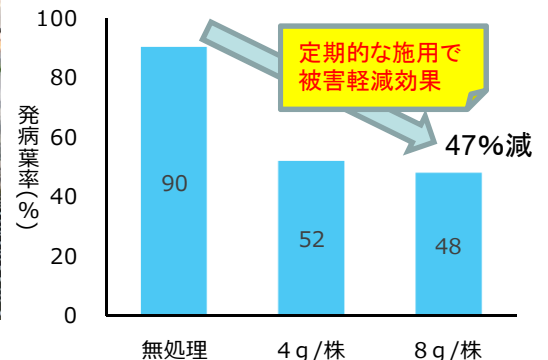


下位葉が発病

無処理 4g/ポット 8g/ポット

ほ場試験

移植時とその後約1か月おきに計3回株元施用、自然発生、8月下旬調査



定期的な施用で被害軽減効果

47%減

【技術の活用】 移植時とその後約1か月おきに亜リン酸粒状肥料を株あたり4~8g施用することで、べと病の被害軽減効果が得られます。それに伴って、収穫時期を1~2週間延長することができ、増収につながります。

